国内交流で各町を訪問

以前から町名に「鷹」や「福島」が付くつながりで、児童や生徒が互いの町を訪問し、ホームステイなどで環境や地域文化の違いを体験することなどを目的とした国内交流を行っています。

今年度から対象者を市全域に広げて、新たな交流で青少年の人材育成に取り組んでいます。

市内児童が鷹栖町を訪問

12月25日から30日にかけてホークス訪問団が北海道鷹栖町を訪問し、交流を深めました。

ホークス交流事業での鷹栖町への児童派遣は平成8年から実施しており、今回で14回目。今回鷹栖町を訪問したのは、鷹島小の髙橋朋子さん、近藤菜々さん、堤美里さん、志佐小の岡本舞さん、岡本唯さん、福島小の前田つぐみさんの6人。初めて目にする一面の銀世界に寒さも忘れてスキーや犬ぞりなどを体験して、鷹栖町民との交流を深めました。

中学生が福島町と木曽町を訪問

12月と1月に松浦市・木曽町・福島町生徒学習交流事業として市内中学生が北海道福島町、長野県木曽町を訪問しました。

12月26日から29日にかけて福島町を訪問したのは、福島中の中山奈桜さん、御厨中の田中楓さん、川上湖代美さん、鈴木涼華さん、今福中から川田誠一郎君、末竹真悟君、末永成希君、星野公祐君の8人。滞在中は学校訪問や町内見学などで町民の皆さんとの交流を深めました。また、1月15日から18日には、福島中の太田寛君、木寺陸人君、矢野隆也君、山田歩乃香さん、吉田晃之進君の5人が木曽町を訪問し、ホームステイやスキー体験などを通して交流を深めました。

播磨釜Aチームが優勝 ―福島町一周駅伝大会―

第56回福島町一周駅伝大会が1月10日に開催され、8区間24・25キロで健脚を競いました。

今大会には市内外から25チームが参加。福島港ふれあい広場前をスタートし、沿道の声援を受けながらたすきをつなぎました。

上位の結果は次の通りです（敬称略）。

〈総合成績〉

【町内一般】

①播磨釜A　1時間34分28秒

②日の浦　1時間34分31秒

③原　1時間35分22秒

【敢闘賞】 福崎　9分01秒短縮

【特別賞（オープン）】

①スナックアリガトウ

②松浦消防

③中島走ろう会

〈区間賞【町内一般】〉

1区（4・15キロ）福本隼也（鍋串）15分05秒

2区（3・1キロ）本山智貴（原）11分31秒

3区（2・5キロ）下條聖人（浅谷）8分56秒

4区（4・4キロ）福井雄一（播磨釜A）16分41秒…**連続区間賞8回目**

5区（2・9キロ）山口将平（土谷A）11分08秒

6区（3・5キロ）山田芳幸（原）12分24秒

7区（1・7キロ）吉田晃之進（播磨釜A）6分05秒

8区（2・0キロ）橋本拓也（日の浦）7分00秒

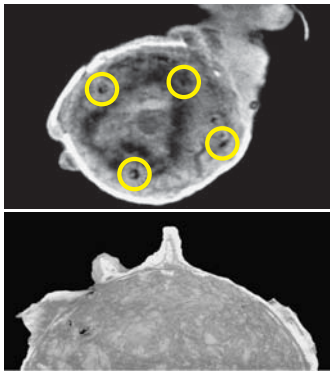
わたしたちの郷土 49巻

中世の松浦（15）鷹島海底遺跡

左の写真は鉄製冑（かぶと）です。神崎港の海底約10・2㍍のところから出土しています。海底で検出した鉄製品は、海水による鉄の腐蝕が進行したことに加え、鉄錆と海底の砂泥が溶着し、本来の形状を保っているものはほとんどない状況です。鉄成分の残存状況でも磁性反応はありません。また、X線写真の撮影でも鉄成分はありませんでした。冑の場合は周辺に付着した砂泥や鉄錆と反応して硬化した状態で検出されており、この硬化状況から本来の冑の形状をうかがい知るしかありません。冑の大きさは最大幅が約25㌢で、現在工事現場などで使用されているヘルメットの大きさと変わらないようです。

そこで、健康診断などに用いられるX線CTスキャナなどの最新設備がある太宰府市の九州国立博物館の協力を得て、この冑のCT調査を行いました。

その画像の分析から、冑の頂部突起部分は本体と接合するため4カ所に鋲で固定されていること、冑の金属部分は残っておらず庇の部分にはベルトと有機質の顎あてがあることが確認されています。



▶鷹島歴史民俗資料館で展示中

ALTコラム

ハナ先生（アメリカ出身）

CouchSurfing　カウチサーフィン

「カウチサーフィン」は急速に発展しているインターネットの旅行サイトで、世界中の人々に『世界中何処でも旅をして、ガイドブックに載っていない物や場所を見て、地元の人々のところに滞在し、会話をし、分かち合い、学び合う』といった冒険を可能にしています。

「カウチサーファー」は、無償で自宅を旅行者に提供することで、世界中の人々と交流の機会を得るのです。有名なホテルに滞在するのではなく、地元の人々の目線でそのまちを体験することができ、異文化や会話を楽しみ、真のもてなしを経験できるのです。

初めてカウチサーフィンを知った人は、安全面を心配します。知らない人のところに泊まる？知らない人を泊める？わからない・・・。安全ということは大切なので、旅行者と受入側が安心できるように数多くの検証がなされています。カウチサーファーは、その人の状況が許す範囲で提供すれば良いのです。知らない人を泊めるのはいやだけど、自分が旅行する時には地元の人々と知り合いになりたいという人は、一緒にお茶を飲んで、話をするだけでも良いのです。どういった状況であっても、人と人との交流を可能にする方法が取られていて、インターネットのホームページによると、99．793％の人が支持しています。

私も、カウチサーフィンに参加しています。シアトルの中高年のご夫妻と夕日を眺め、ご家庭でメキシコ料理をいただいたこともあります。松浦では、オーストラリアからやって来たカウチサーファーを受け入れ、オランダやイタリアからも松浦にやって来ました。最近では、京都でイスラム系ロシア人のアブドラと彼の大阪出身の妻、ミカさんのところにカウチサーフィンしました。二人は大変私によくしてくださって、最後の夜はもう一組のロシア人と日本人のご夫妻も加わって、一緒に夕食を食べました。

カウチサーフィンは、しばしば紛争によって涙を流している世界を勇気付けている現象です。これは、人々の視野を広げ、挑戦をする心をはぐくみ、地球を一つにする本物の、成功している試みです。ぜひ、インターネットで検索して、冒険を始めてください！